

2012年11月2日

内閣総理大臣、 外務大臣、 防衛大臣、
アメリカ合衆国大統領（アメリカ合衆国日本大使館経由）
（参考として 新聞社テレビ局11社へ送付）

沖縄県女性団体（新垣 智：那覇市字真嘉比2 098-884-9353）

男女平等教育沖縄支部を通じて依頼）

国際婦人年連絡会

世話人 橋本 葉子

實生 律子

山口みつ子

沖縄女性に対する米兵の性的暴行に対する抗議

10月16日沖縄本島中部で、またしても米兵による女性暴行事件が起きました。飲酒をした米海軍兵2人が共謀して路上で20代の女性を襲い、性的暴行を加え、首に傷を負わせたという行為は、女性の人権、人間の尊厳を踏みにじる犯罪であり、決して許すことはできません。

基地あるが故に繰り返されるこうした事件は沖縄県民をはじめとする日本国民に強い衝撃、悲しみ、怒りを与え、私たちはそのたびに抗議の声をあげ、事件の根絶を求めてきました。日米両政府は毎回「遺憾の意」、「再発防止」、「綱紀粛正」を表明しますが、悲劇は繰り返されてきています。

沖縄の米兵による性的暴行事件の検挙件数は1972年の本土復帰から今年9月までで127件、144人とされますが、性的事件の多くは届け出られず、これは氷山の一角と思われます。私たちは、1995年9月、米海兵隊員ら3人による少女暴行事件の衝撃を忘れることはできません。事件に対する県民の抗議の広がりをきっかけに、普天間基地などの返還合意が行われましたが、その後も事態は少しも進展しないどころか、凶悪犯罪は後を絶ちません。

国際婦人年連絡会は、子どもや女性の生命を脅かし、女性の人権、人間の尊厳を踏みにじる凶悪な犯罪に最大の憤りをもって抗議します。

米国は、犯罪者である米兵を厳正に処罰し、直ちに実効性ある再発防止策により、こうした悲劇が決して繰り返されることのないよう日米両国政府は沖縄県民が納得できる対応策を講じることを強く求めます。